

商品名 アンペック注50mg 医薬品基本情報

薬効	8114 モルヒネ系製剤	一般名	モルヒネ塩酸塩水和物注射液
英名	Anpec	剤型	注射液
薬価	1313.00	規格	1% 5mL 1管
メーカー	住友ファーマ	毒劇区分	(劇)(麻)

アンペック注50mgの効能・効果

激しい疼痛時の(鎮静、鎮痛)、激しい咳嗽発作の鎮咳、激しい下痢症状の改善、手術後の腸管蠕動運動の抑制、麻酔前投薬、麻酔補助、中等度から高度の疼痛を伴う各種癌の鎮痛、激しい疼痛時の鎮痛、中等度から高度の疼痛を伴う各種癌の鎮痛

アンペック注50mgの使用制限等

- 重篤な呼吸抑制、気管支喘息発作中、重篤な肝機能障害、慢性肺疾患に続発する心不全、痙攣状態、ストリキニーネ中毒、てんかん重積症、破傷風、急性アルコール中毒、アレルギーで過敏症の既往歴、本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、出血性大腸炎、重篤な細菌性下痢、ナルメフェン塩酸塩水和物投与中、ナルメフェン塩酸塩水和物投与中止後1週間以内、注射部位又はその周辺に炎症、敗血症、髄膜炎、中枢神経系疾患、灰白脊髄炎、脊髄瘍、脊髄に結核、脊椎に結核、脊椎炎、脊髄に転移性腫瘍、脊椎に転移性腫瘍、脊髄に活動性疾患、脊椎に活動性疾患

記載場所 使用上の注意

注意レベル **禁止**

- 細菌性下痢

記載場所 使用上の注意

注意レベル **原則禁止**

- オピオイド系鎮痛薬を使用していない

記載場所 用法・用量

注意レベル **注意**

- 心機能障害、呼吸機能障害、脳器質的障害、ショック状態、代謝性アシドーシス、甲状腺機能低下症、粘液水腫、アジソン病、副腎皮質機能低下症、薬物依存の既往、尿道狭窄、前立腺肥大による排尿障害、尿路手術術後、器質的幽門狭窄、最近消化管手術を行った、麻痺性イレウス、痙攣の既往、胆石、胆嚢障害、重篤な炎症性腸疾患、髄膜炎、中枢神経系疾患、灰白脊髄炎、脊髄瘍、脊髄に結核、脊椎に結核、脊椎炎、脊髄に転移性腫瘍、脊椎に転移性腫瘍、脊髄に活動性疾患、脊椎に活動性疾患、血液凝固障害、抗凝血剤投与中、脊柱に著明な変形、腎機能障害、肝機能障害<重篤な肝機能障害を除く>

記載場所 使用上の注意

注意レベル **注意**

アンペック注50mgの副作用等

1.	依存性、あくび、くしゃみ、流涙、発汗、悪心、嘔吐、下痢、腹痛、散瞳、頭痛、不眠、不安、せん妄、振戦、全身筋肉痛、全身関節痛、呼吸促迫、退薬症候、息切れ、呼吸緩慢、不規則呼吸、呼吸異常、呼吸抑制、錯乱、無気肺、気管支痙攣、喉頭浮腫、麻痺性イレウス、中毒性巨大結腸	記載場所	重大な副作用
		頻度	頻度不明
2.	不整脈、血圧変動、顔面潮紅、眠気、めまい、不安、不穏、興奮、視調節障害、発汗、痛覚過敏、異痛症、アロディニア、悪心、嘔吐、便秘、口渇、過敏症、発疹、そう痒感、発赤、腫脹、硬結、疼痛、肉芽腫、腫瘍、排尿障害、尿閉、頭蓋内圧亢進、脱力	記載場所	その他の副作用
		頻度	頻度不明
3.	脊髄刺激効果、化膿性髄膜炎症状、敗血症性髄膜炎、薬物依存、重篤な呼吸抑制、肉芽腫、腫瘍、呼吸抑制、頭蓋内圧上昇、昏睡、胆道痙攣、巨大結腸症、血腫、脊髄障害、脊髄損傷、神経根損傷、催奇形作用、脳脱、軸骨格癒合、退薬症候、多動、神経過敏、不眠、振戦、意識不明、痙攣、錯乱、血圧低下、重篤な脱力感、重篤なめまい、嗜眠、心拍数減少、不安、縮瞳、皮膚冷感、アナフィラキシー、低血圧、末梢循環虚脱、心停止、頭痛、一過性外転神経麻痺、脊髄神経障害	記載場所	使用上の注意
		頻度	頻度不明

アンペック注50mgの相互作用

1.	薬剤名等	ナルメフェン塩酸塩水和物投与中止後1週間以内		
	発現事象	-	投与条件	-
	理由・原因	-	指示	禁止
2.	薬剤名等	ナルメフェン塩酸塩水和物		
	発現事象	本剤の効果が減弱、本剤の離脱症状	投与条件	-
	理由・原因	μオピオイド受容体拮抗作用により、本剤の作用が競合的に阻害	指示	禁止
3.	薬剤名等	抗凝血剤投与中		
	発現事象	血腫、脊髄障害	投与条件	硬膜外
	理由・原因	出血	指示	注意
4.	薬剤名等	抗凝血剤投与中		
	発現事象	血腫、脊髄障害	投与条件	くも膜下
	理由・原因	出血	指示	注意
5.	薬剤名等	中枢神経抑制剤		
	発現事象	呼吸抑制、昏睡、低血圧、顕著な鎮静	投与条件	-
	理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用が増強	指示	注意
6.	薬剤名等	吸入麻酔剤		
	発現事象	呼吸抑制、昏睡、低血圧、顕著な鎮静	投与条件	-
	理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用が増強	指示	注意

7. 薬剤名等：モノアミン酸化酵素阻害剤

発現事象	呼吸抑制、昏睡、低血圧、顕著な鎮静	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用が増強	指示	注意

8. 薬剤名等：三環系抗うつ剤

発現事象	呼吸抑制、昏睡、低血圧、顕著な鎮静	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用が増強	指示	注意

9. 薬剤名等：β-遮断剤

発現事象	呼吸抑制、昏睡、低血圧、顕著な鎮静	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用が増強	指示	注意

10. 薬剤名等：アルコール

発現事象	呼吸抑制、昏睡、低血圧、顕著な鎮静	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用が増強	指示	注意

11. 薬剤名等：クマリン系抗凝血剤

発現事象	作用が増強	投与条件	-
理由・原因	-	指示	注意

12. 薬剤名等：抗コリン作動性薬剤

発現事象	尿貯留、麻痺性イレウスに至る重篤な便秘	投与条件	-
理由・原因	相加的に抗コリン作用が増強	指示	注意

13. 薬剤名等：ジドブジン

発現事象	副作用＜骨髄抑制等＞を増強	投与条件	-
理由・原因	ジドブジンのグルクロン酸抱合が競合的に阻害され、ジドブジンの代謝が阻害	指示	注意

14. 薬剤名等：アジドチミジン

発現事象	副作用＜骨髄抑制等＞を増強	投与条件	-
理由・原因	ジドブジンのグルクロン酸抱合が競合的に阻害され、ジドブジンの代謝が阻害	指示	注意

15. 薬剤名等：ブプレノルフィン

発現事象	本剤の作用に拮抗	投与条件	ブプレノルフィンの高用量（8mg連続皮下投与）
理由・原因	μオピオイド受容体拮抗作用により、本剤の作用が競合的に阻害		指示 注意

16. 薬剤名等：クロピドグレル

発現事象	血漿中濃度が低下	投与条件	-
理由・原因	本剤の消化管運動抑制により、これらの薬剤の吸収が遅延		指示 注意

17. 薬剤名等：チカグレロル

発現事象	血漿中濃度が低下	投与条件	-
理由・原因	本剤の消化管運動抑制により、これらの薬剤の吸収が遅延		指示 注意

18. 薬剤名等：プラスグレル

発現事象	血漿中濃度が低下	投与条件	-
理由・原因	本剤の消化管運動抑制により、これらの薬剤の吸収が遅延		指示 注意

